

下関市指定無形文化財

神事

龜山能

日時

令和5年10月28日(土)

場所

龜山八幡宮

午前11時 神事 翁渡式
正午 開場
午後1時30分 龜山能

下関市指定無形文化財 電話083-630-1111 FAX083-630-1112

仕舞(金剛流)

狂言(大藏流)

「寝音曲」
ね おんぎょく

能

(金剛流)

「俊寛」
しゅん かん

拝観料 四、〇〇〇円

拝観券は龜山八幡宮、フレイガイズ、シーモール4F
下関商業開発、シーモールFラン、市民会館、
能楽関係者等にのみあります。

主催
後援

龜山能楽会

下関市・下関市教育委員会

下関市文化振興財団

下関商工会議所・下関市文化協会

下関観光コンベンション協会

KAY山口放送・tv5アールエロ

Yab山口朝日放送

読売新聞西部本社・朝日新聞社

毎日新聞社・山口新聞社

J:COM下関(順栄同)

特別協賛 山口合同ガス株式会社
カヌラ・エナの撮影はしません。

ごあいさつ

下関市指定無形文化財・亀山能は西日本有数の神事能で、豊臣秀吉が奉納して以来、四百三十数年故実正しく格式高く伝えられ、亀山八幡宮秋季例大祭を式日として厳肅盛大に催されています。本年は金剛流・大蔵流により奉納されます。

関係各位のご尽瘁と、重要無形文化財能楽（総合指定）保持者の能楽師の方々により催能致します。

皆さまお誘い合わせのうえ、秋のひとつとき幽玄なる亀山能をご観賞下さい。

亀山能楽会 会長 山本 徹

神事 翁渡式 (御神前 午前十一時)

神歌

(翁) 向井 弘記 (千歳) 湯川 稜

(地謡)

谷岡 修司
安田 和夫
豊嶋 晃嗣
林 真一郎
木村 次生

亀山能 (儀式殿 午後一時半)

(解説) 宇高 竜成
「本日の能について」

(仕舞・金剛流)

八 島 惣明 貞助
班 女アト 廣田 幸稔
天 鼓 山田 伊純 日高 雅彦
宇高 徳成

(狂言・大蔵流)

寝音曲 (太郎冠者) 川邊 宏貴 (主人) 中島 清幸
(後見) 秋吉 英二

(休憩 二十分)

俊

寛

間

(赦免使) 江崎欽次郎
(船頭) 河原 康生

(太鼓) 白坂 保行 (笛) 森田 光次
(小鼓) 幸 正佳

(後見) 廣田 幸稔
惣明 貞助

(地謡)
谷岡 修司
安田 和夫
林 真一郎
木村 次生
日高 雅彦
宇高 徳成
山田 伊純

附 祝 言

終演 午後四時半頃

あらすじ

狂言 寝音曲(ねおんぎょく)

前夜はじめて太郎冠者(シテ)の謡を立ち聞いた主人が、翌日さっそく呼び出し、聞きたいと望む。冠者は素面(むく)ではうたえないと主人の酌で酒を飲み、次には妻の膝枕でなければ声が出ないという。しかし、せめてもと主人が膝を貸すので、しかたなく短い謡をうたう。

喜んだ主人が起こすと故意にうたいにくそうにしていた冠者は、主人の誘いにだまされて朗々とうたい、舞も舞う。うたい終わって冠者は、自分が起きてうたってしまったことに気づき、あわてて部屋を出て行く。

能 俊 寛(しゅんかん)

平家撲滅の陰謀が発覚して俊寛と康頼・成経の三人は九州薩摩南方の鬼界が島に流された。高倉天皇の中宮徳子(平清盛の娘)ご産の御祈りのために大赦があり、康頼・成経が赦され、赦免の使が都を発つ。俊寛(シテ)と康頼(ツレ)・成経(ツレ)の三人が谷の水を酒として飲み交わし、昔の栄華をしのび今の境涯を嘆くところへ、赦免の使(ワキ)が到着する。赦免状に俊寛の名は記されていない。俊寛は、罪も同じ罪、配所も同じ配所なのに、なぜ自分だけが赦されないのかと悲しみに沈む。せめて薩摩までもと哀願するが船人は押し切って舟を出す。絶望した俊寛を残し舟影も人影も消えてゆく。